

平成29年度 NO. 1

# 県北地区 エリアネットワーク事業情報誌



## 第1回研修会を終えて 新たなイベントの提案 ～地元の魅力を発信する～

【この情報誌は、県北地区のクラブ運営向上及びネットワーク強化を目的として作成しました。第1号は「第1回研修会の感想と新たなイベントの提案」を掲載しました。自クラブの運営に役立てていただければ幸いです。

作成

うつくしま広域スポーツセンター

NPO法人かわまたスポーツクラブ

事業名	県北地区エリアネットワーク事業研修会①
実施日時	平成29年6月29日（木） 14:00～16:00
会場	川俣町体育館 会議室
参加者	16名

<講師> 蓮沼 哲哉氏（福島大学人間発達文化学類スポーツ・芸術創造専攻講師）

<内容> 【スポーツイベントの仕掛け方】

- ・ イベントを開催するにあたり、6W2Hに基づいた要項を作成し、連携体制を整理して準備をすることの重要性の講義
- ・ イベントの効果を最大に発揮する宣伝方法
- ・ 『スポーツ化・フィールド化・モダン化』といった企画発想手法を理論と実例を通じ学ぶ。

【スポーツツーリズム】

イベントを通じて、観光・町づくり・コミュニティー創生など連携先との協働により、大きな成果を得ることを具体的事例をもって講義を受ける。

<感想> 各クラブが持つ課題「自立」に繋がる取組み・ヒントの一つであることが講義の中で見つける機会となりました。また、クラブの認知向上や連携団体の拡充、チーム力の向上などの手法を学ぶことができました。

スポーツツーリズムという考え方も実例を通じて学び、自分たちも日頃から地元を思うことを常習化しなければ生まれない発想を持つことが、クラブの活性化に繋がることを再認識させられました。



# 一般社団法人いわしろふれあいスポーツクラブ



イベント名	高齢者スポーツ教室
発想手法	スポーツ化
内容	普段あまりスポーツをされていないと思われる高齢者を対象に、ニュースポーツを体験するプログラムを提供する。市のスポーツ推進委員会との共催で開催している。
趣旨	競技としてスポーツをするのは抵抗がある方も、レクリエーションとして楽しみ、他地区の方とも交流しながら体を動かしてもらう。
参加者数	63名
収支	赤字・赤字

Q1. 「成功した」と感じていることを教えてください。

高齢者サロンの仲間と一緒に参加する方、仲間同士のグループで参加する方、地区の老人クラブで参加する方、個人で参加申し込みをする方とそれぞれ申込みの形は違うが、シャッフルしてグループ分けをすることで、他地区の方とも交流を深めながら活動ができています。ルールもその都度覚えながらではあるが、あちこちで笑い声が絶えない様子を見ると、楽しんで運動されているなど感じる。

Q2. 連携協力体制は十分でしたか？更に強化するのであれば、どの団体と連携すれば効果的であったと考えますか？その理由を教えてください。

現在、社会福祉協議会、スポーツ推進委員会、老人クラブとの連携はとれていると思う。今後、高齢福祉課や健康増進課との連携が図れれば、介護予防にも繋がっていくのではないかなと思う。

Q3. 告知・宣伝方法は効果的でしたか？更に効果を上げるためには何が必要だと考えますか？

地域内全戸配布のお知らせに掲載した。また、高齢者サロン等へのDMも送付した。

Q4. もし地元の魅力を発信するイベントを開催するとしたら、どのような企画を提案しますか。  
(別紙資料を参考に)

イベント名：『いわしろの魅力再発見 自分の足でぶら～り散歩旅』

内容： 地域内の巨木・お寺・お地蔵さんなどをスタンプラリーで自分の足で巡り、自分の住む地域を見つめて、自分の住む地域をよく知る機会にする。巨木やお地蔵さんの前ではクイズを出題。お寺さんでは住職の話の内容を覚えて帰ってもらって、ゴールでクイズに答えてもらう。散歩とクイズを楽しみながら地元を知る。ゴール後には、地元の食材を使った郷土食を提供し、地元の食にもふれる。

協力団体等： 地元のお寺、健康推進員（食生活改善推進員）、地元の歴史を考える会 他

参加費：1,000円

参加者：50～100名

# 一般社団法人にほんまつ城山クラブ



イベント名	ソフトバレーボール大会
発想手法	地域交流
内容	ソフトバレーボールサークルのメンバーを中心に、近隣のソフトバレーボール団体を対象に、3リーグを設け大会を企画する。
趣旨	ソフトバレーボールを通しての地域交流・参加者同士の交流を深める。
参加者数	17チーム・85名
収支	黒字・赤字

Q1. 「成功した」と感じていることを教えてください。

開催回数が今回で7回目ということもあり、近隣からの参加者が増え、競技・食事を楽しんでいた。

Q2. 連携協力体制は十分でしたか？更に強化するのであれば、どの団体と連携すれば効果的であったと考えますか？その理由を教えてください。

< 商工課・商工会議所・商店街・観光課 >

近隣の方々の参加もふえているので、賞品や昼食で二本松の名産などを提供できればと思う。また大会要項等に、二本松の観光PRができるものの掲載・添付、または商店の広告等の掲載が出来ればよかったと思う。

Q3. 告知・宣伝方法は効果的でしたか？更に効果を上げるためには何が必要だと考えますか？

クラブ会報等での参加者募集のみだったので、市広報誌・フリーペーパー等を利用した募集などを検討していきたい。

Q4. もし地元の魅力を発信するイベントを開催するとしたら、どのような企画を提案しますか。

(別紙資料を参考に)

イベント名：『霞ヶ城スポーツ・ウォーク』

内容： 二本松のシンボル霞ヶ城周辺の城山総合運動公園を利用し、1チーム4名程度でウォーキングだけでなく、ニュースポーツやゲーム等を楽しむ。昼食には豚汁や「ざくざく」を提供し、また地元商店などに協力を仰ぎ、賞品やくじ・ビンゴの景品として二本松の地酒・銘菓・特産品を準備して二本松の魅力を伝える。

連携先：生涯学習課・保健福祉課・観光課・商工会・スポーツ推進委員・体育協会

参加費：2,000円程度

参加者：200～300名程度

# もとみやスポーツネットワーク



イベント名	パークヨガ
発想手法	モダン化
内容	昨年度まで指導して頂いていた人気ヨガ講師とアシスタントマネージャーが、他団体のヨガイベントに参加し、地元で行いたいという思いが一致し開催に至った。
趣旨	久しぶりの講師との再会やヨガを通じた健康づくり、クラブや本宮のアピール。
参加者数	約50名
収支	黒字・赤字

※ 28年度はイベントを行わなかったため6月に行ったものを報告しています。

Q1. 「成功した」と感じていることを教えてください。

会員のほかにも市内の方や郡山、遠くは須賀川からも参加があり、終了後にはすごく良かったとの声をたくさん頂いた。アンケートの結果も「継続して行って欲しい」と言う声が多かった。イベント運営については県のスポーツ振興基金助成事業を活用した。

Q2. 連携協力体制は十分でしたか？更に強化するのであれば、どの団体と連携すれば効果的であったと考えますか？その理由を教えてください。

公園の使用を市から許可を頂いた。もともとの発想が、少ないスタッフで出来るイベントということで、スタッフ2名で対応した。来年からは地元農家などと協力し、マルシェ（地元野菜販売）などが出来たらよいと思う。

Q3. 告知・宣伝方法は効果的でしたか？更に効果を上げるためには何が必要だと考えますか？

市内回覧と民報・民友新聞で周知した。それよりも口コミが大きかったようだ。新聞に開催報告も掲載してもらえるように手配したい。

Q4. もし地元の魅力を発信するイベントを開催するとしたら、どのような企画を提案しますか。

(別紙資料を参考に)

昨年オープンした屋内運動施設『まゆみアリーナ』を使って、サッカーまたは野球、テニス系のイベントを企画したい。

# NPO法人かわまたスポーツクラブ



イベント名	スポーツ吹矢大会
発想手法	スポーツ化
内容	町の吹矢協会・体育協会と連携し、県内のスポーツ吹矢協会に加盟する団体を対象に個人戦・団体戦と8つの賞を設け、大会を企画する。
目的	スポーツ吹矢の普及と発展。競技としての大会と共に、参加者同士の交流を深め、コミュニティーの促進に貢献する。
参加者数	154名
収支	黒字・赤字

Q1. 「成功した」と感じていることを教えてください。

近隣だけでなく、遠方からの参加者もあり、多くの参加者が競技を楽しんでおり、コミュニケーションの場ともなった。

Q2. 連携協力体制は十分でしたか？更に強化するのであれば、どの団体と連携すれば効果的であったと考えますか？その理由を教えてください。

< 町商工会・町産業課 >

遠方からの参加者もあったので、景品や昼食のお弁当に、川俣町の魅力（名産品）なども扱ったものを準備してもよかったかもしれない。

Q3. 告知・宣伝方法は効果的でしたか？更に効果を上げるためには何が必要だと考えますか？

スポーツ吹矢協会に加盟する団体を対象とした大会であったため、協会内への告知は十分にできた。非加盟団体までを対象とするのであれば、スポーツ吹矢を事業に持つ総合型スポーツクラブなどへの告知も効果的であると考えます。

Q4. もし地元の魅力を発信するイベントを開催するとしたら、どのような企画を提案しますか。  
(別紙資料を参考に)

イベント名：『かわまた丸ごとウォーキング大会』


内容： 川俣町の名所（ざる菊・長滝等）などを訪ねながら約10kmのウォーキングを楽しむ企画。ウォーキング後には、持参のお弁当や、名産のシャモ焼き鳥や、シャモ汁などを食べながらの交流会を設け、参加者間のコミュニケーションを深めてもらう。また大会後のくじ引きなどで名産品「かわまたシルク」なども商品も準備し、川俣町の魅力も合わせて伝える。

連携先：町産業課、生涯学習課、保健課、町商工会、スポーツ推進委員

参加費：1,500円～2,000円

参加者：300～400名

# マルベリーこおり

	イベント名	選奨土木遺産“西根堰”巡り健康ウォーク 2016
	発想手法	フィールド化
	内容	ノルディックフィットネススポーツを通して、「健康で歩けること」を実感し、「西根堰からの景観」を楽しみ、「周辺農産品」の作物を見ながら、「参加者同士」がふれあうなど秋の桑折路を満喫してもらう。
	趣旨	ノルディックフィットネススポーツを通じた健康増進と、新たな発見・出会いを目的として、土木学会選奨土木遺産に選定された「西根堰」を巡るノルディックウォーキング大会を開催する。
	参加者数	88名
	収支	黒字・赤字

Q1. 「成功した」と感じていることを教えてください。

参加者のほとんどが町外・県外の方ですが、このイベントをきっかけに“桑折町”を知っていただき、年間を通して来町してくれるので、交流人口の拡大に繋がっていると実感している。

Q2. 連携協力体制は十分でしたか？更に強化するのであれば、どの団体と連携すれば効果的であったと考えますか？その理由を教えてください。

< 町産業振興課・町振興公社・町商工会等 >

これだけ町外の方が参加してくださるので、町全体でPRしていけたら、もっと内容の濃いイベントになるのではないかと考えている。

Q3. 告知・宣伝方法は効果的でしたか？更に効果を上げるためには何が必要だと考えますか？

県内外のノルディックウォーキングサークルを中心に告知をし、参加者も安定しているので満足している。新規の参加者をどれだけ呼び込むことができるかが課題となるので、県内でノルディックウォーキングを事業に持つ総合型スポーツクラブなどへのPRをしていきたい。

Q4. もし地元の魅力を発信するイベントを開催するとしたら、どのような企画を提案しますか。  
(別紙資料を参考に)

イベント名：『こおり桃源郷フォトロゲイニング大会』

内容： 桑折町は「献上桃の郷」として町産の桃を皇室に献上している町である。そのほかにも歴史的建造物や町のシンボルでもある“半田山”など、歴史・文化・自然が多くあることから、フォトロゲイニングを通して、実際に見て・知って・楽しんでもらおうと企画してみた。各名所に設置したチェックポイントをチームで効率よくできるだけ多く回り、写真を撮り得点を集め、制限時間内に戻ってくる。各ポイントでは、地元の方にも参加してもらい、エイドステーションのように、町名産のお菓子や果物などを提供し、様々な角度から桑折町の魅力を伝えていきたい。

連携先 : 町生涯学習課・産業振興課・町振興公社・町商工会等

参加費 : 1,000円～2,000円

参加者 : 200名

## イベント・プロデューサーへの道

- ① 目的の明確化 : 「何をするか」ではなく、「何のためにするか」  
→ 大義名分があるとメディアバリューが高まる。
- ② 経営感覚 : 事業収支が赤字にならないようにする。
- ③ ユーザーフレンドリー : 参加者の視点(主催者だけで盛り上がらない)
- ④ コラボレーション : 異質なものを組み合わせることで、新しい価値が生まれる。
- ⑤ ネーミング : インスピレーション(感性)とひらめきを大切にす。

## スポーツイベント企画の3つの発想手法

(一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構より)

- ① **スポーツ化**  
地域にあるユニークな風土・風習を、競技方法、ルール、勝敗のつけ方など決めてスポーツとする手法。その地域の人にはおなじみの伝統的なアイテムを、どれだけ現代的なスポーツとしてインパクトのある加工・演出ができるかがポイントとなる。
- ② **フィールド化**  
地域の観光名所や自然遺産などを、スポーツ競技のフィールドにする手法。地域で売り出したいスポットそのものが競技場となるため、施設経費を抑えられるうえに高いPR効果がある。スポーツをしながら観光体験ができる。
- ③ **モダン化**  
古来からある遊びやゲームを、今風な味付けで現代的にする手法。広く知れ渡っている競技であるために、やり方やルール、試合の流れなどは参加者がすでに理解しているため安心感があり、多くの人が鑑賞しやすく、参加しやすい。